

肝臓移植手術を体験して

金沢大学肝移植者友の会

糸田 敬弘

1. 自己紹介

私は、糸田 敬弘(いとだ たかひろ)といます。(敬を“たか”となかなか呼んでもらえない、日本地図を作った伊能忠敬の“たか”です。)

1947年(昭和22年)に金沢市で誕生。

1990年(平成2年)に2度目の尿管結石が出来、生まれて初めて入院。

1991年(平成3年)肝機能が低下し入院、その後、入退院を繰り返す。

2003年(平成15年)3月肝硬変が悪化し、生体肝移植手術を受ける。

2004年(平成16年)生体肝移植の体験を基にホームページを開設。

2004年(平成16年)「金沢大学肝移植者友の会」を発足。

2013年(平成25年)肝臓移植から10年が経過。

2023年(令和5年)肝臓移植から20年が経過。

私の趣味は、音楽鑑賞(クラシック 特にモーツァルト)、オーディオ製作、アマチュア無線、鉄道模型、囲碁、登山、写真、天体観測ぐらいです。

2. 肝性脳症体験談

平成10年（1998年）頃からは急速に体調が悪くなりました。最初の頃はパソコンのキーボードを打つ時、自分が打った字がその通りに表示しなくなり、よく見ると隣の字を打っていました。その時は、年のせいかなと思いました。その後、食事の時に箸がブルブル震え始め、段々激しくなり始めました。

医師にこのことを話すとそれは“肝性脳症であり、神経症状として「羽ばたき振戦」が起きている”と言われました。

こんな状態で半日勤務を続けていましたが、手の震えで満足に字を書くことも出来なくなり、貧血状態から三半規管への血液の流れが悪く、めまいや平衡感覚を失い、何度も倒れ会社の同僚に家まで送ってもらうような事態になり、肝硬変と診断され、ついに休職となりました。

休職状態が1年位続いた平成14年11月6日（2002年）、肝性脳症が悪化し、意識がなくなりました。

後から、家族から聞いた話では、救急車を呼んだら、乗りたくないと言われ、タンカからは降りようとしたそうです。そして、病院では、医師から名前、年齢、住所等、何を聞かれても、自分の名前しか言わず、“何回も同じ事を聞くな”と言って医師を殴ろうとしたそうです。

カルテには「凶暴性のある患者」と書いてあったと妻から聞きました。

治療も終わり、退院間際に、医師は妻に“旦那さんの余命は六カ月です”と告げたそうです。

そして“助かる道は移植しかありません”と言ったそうです。妻は私には告げず子供達に言ったとの事でした。私は退院後に妻から教えてもらいました。

移植は、同じ血液型でないと、駄目だと思っていました。

同じ血液型の息子は、二十歳になったばかりで将来もあるので、自然死か脳死移植を待つしかないと考えていました。

しかし、子供達がインターネットでAB型は誰からも貰えると調べて妻に教えたそうです。妻がドナーに名乗り出ると子供達も名乗り出しました。

家族は適合するかどうかの血液検査をしてもらう事になりましたが、その時から既に妻の心の中では『私がドナーになる』と決めていたようです。

3. 生体肝移植に至るまで

私が受けた生体肝移植は、C型肝炎ウィルスによるものは当時は、全額負担が求められました。

私自身としては、何回も入退院を繰り返し医療費もかなりかかっていたし、更に移植となると、これ以上、家族に経済的負担をかけたくなかったのもので、天命を待つ覚悟でおりました。

しかも、**生体肝移植は、ドナーになる家族の健康な身体にメスを入れる事になり、多くのリスクが求められます。**

家族は“お父さん家を売っても良いから生きて”、“肝臓も提供する”と言ってくれたので、医師に“移植の説明して下さい”とお願いいたしました。

また、会社、組合、同期の方々が、私の手術費を捻出するために募金活動をして下さいました。お陰で約1300万円かかった医療費を捻出して頂きました。

私の様に恵まれたケースは希でした。同じ様な時期に移植が必要となった方の多くが、手術を受けることなく亡くなられました。 .

また、医療費を捻出するために自宅を手放した方や退職金で捻出された方もおられました。

また、血液型が合わず提供して頂けない方もおられたと聞きました。

現在では、血液不適合移植も行われているようですが、私は幸いにA B型でどの血液型からも貰えるという幸運にも恵まれました。

私が、移植に至った経緯を説明させて頂くと、原因は分かりませんが、自分としてこれが原因だと思っています。間違っているかもしれません。

もう何十年も経ちますが、腰が痛く針治療を受けた翌日から40度の高熱が続き、急性の肝炎ではないかと診断されました。

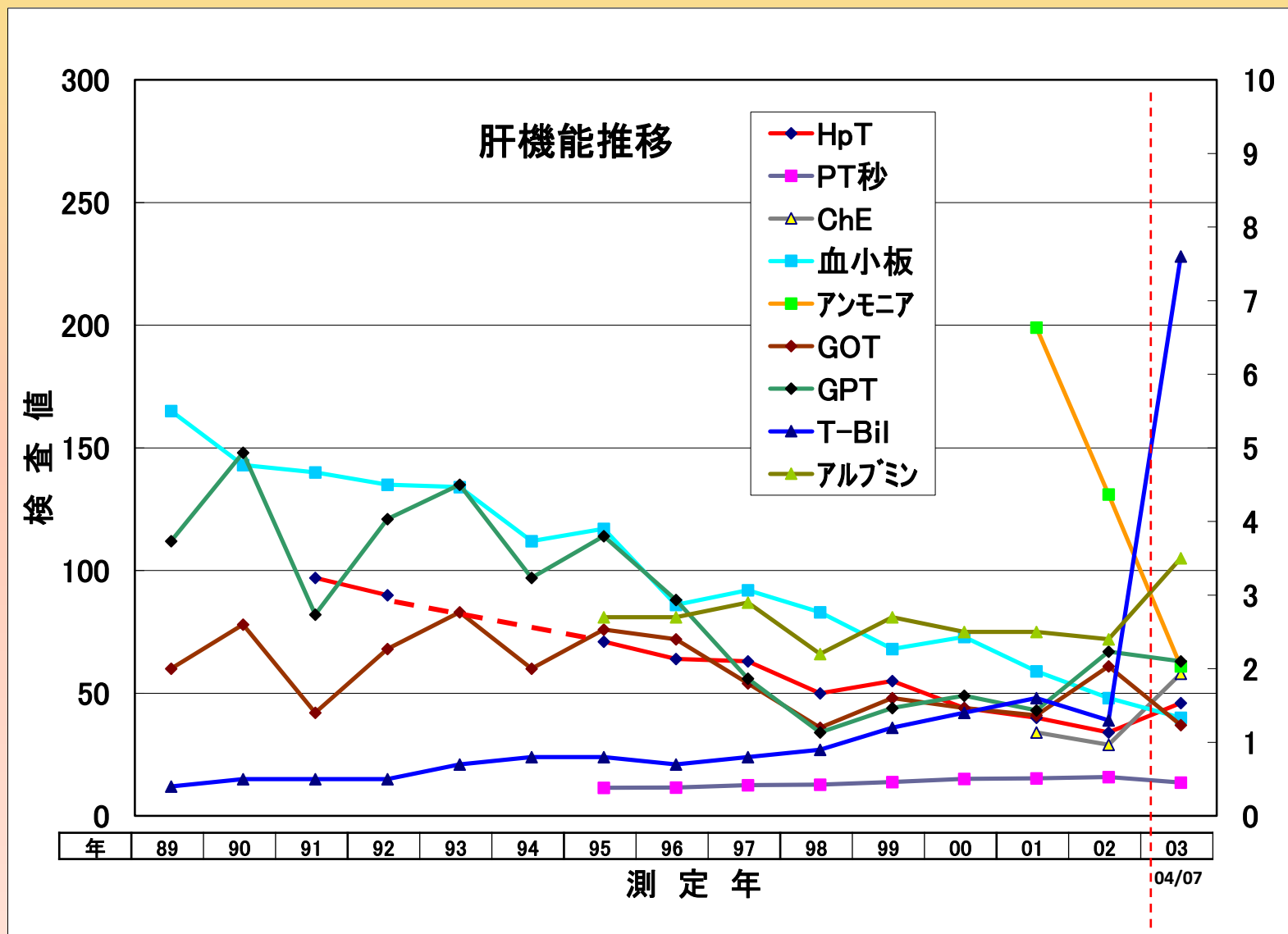
医師からの問診の時に、“私は晩酌はしませんが、酒は少々飲みます”と言いますと、先生は“具体的には最高で、どの位ですか”聞かれましたので・・・

“少々(升々)ですから2升です”と答えましたら、先生に怒られ、それ以来、病名はアルコール性肝炎と書かれてしまいました。

それ以後は、強力ミノファーゲンの注射を打たれることになり、症状も治まってきましたが年々、肝機能が低下していきました。

4. 肝機能推移

年々、肝機能が低下していきました。



生体肝移植2003年3月27日

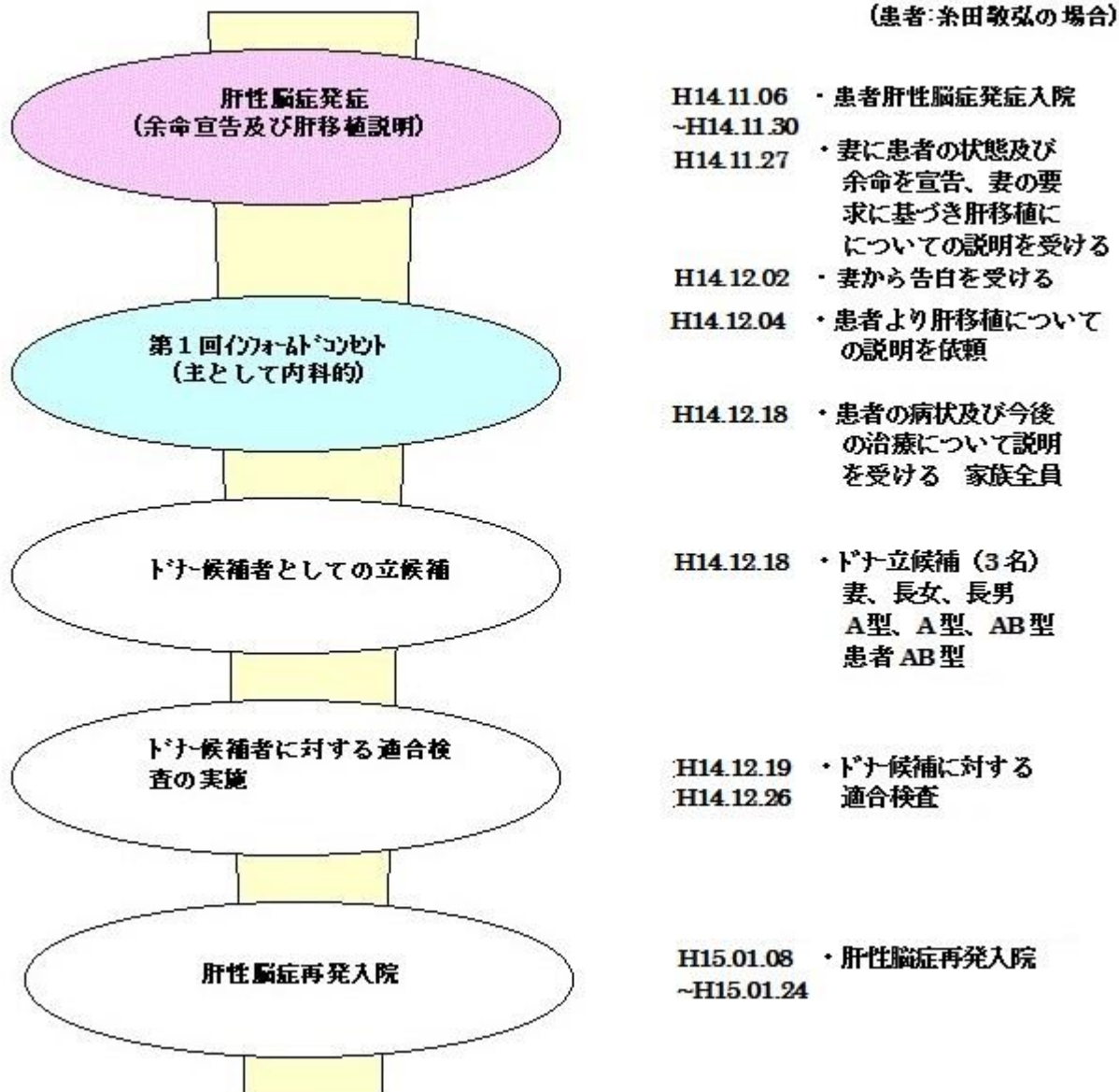
5. 入院歴

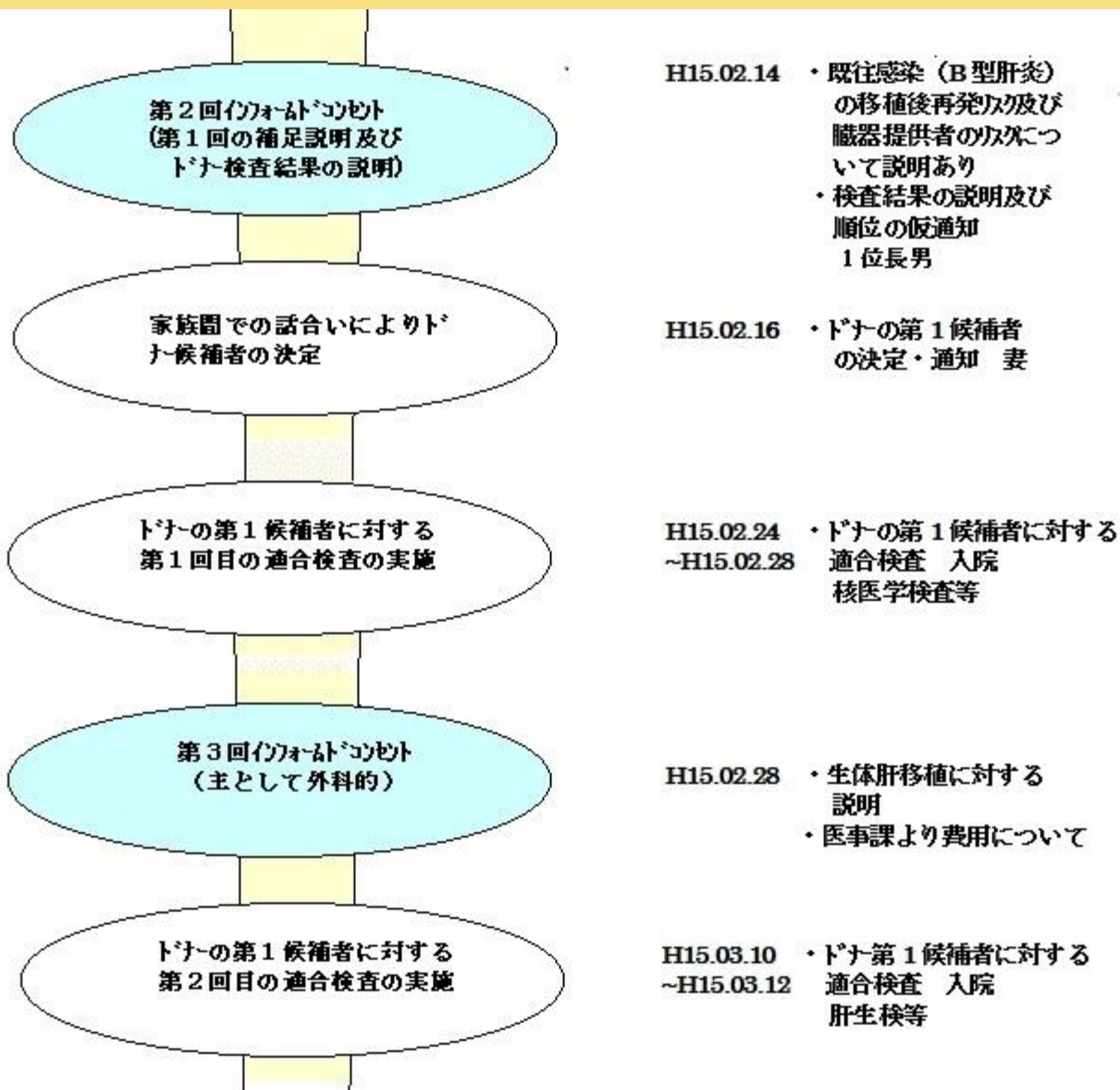
生体肝移植までの入院歴及び移植後の入院歴です。

回数	傷病名	治療目的	病院名	入院日	退院日	主な治療内容等
1	右尿管結石	結石の除去	七尾恵寿	1990/5/25	1990/6/1	体外衝撃波結石破砕
2	慢性活動性肝炎	肝機能の改善	七尾恵寿	1991/2/18	1991/3/1	安静療養
3	慢性活動性肝炎	肝機能の改善	金大附属	1991/8/5	1991/9/17	治験薬231-SA-3443(H3.9.9~H3.12.6)、網膜剥離光凝固レーザー)
4	慢性活動性肝炎	肝機能の改善	金大附属	1992/4/22	1992/5/28	インターフェロンα<イントロンAヤマノウチ600万IU/日 × 2W連続 + 14W週3回>H4.5.7~H4.8.27)
5	慢性活動性肝炎	-----	金沢市立	1992/9/3	1992/9/7	肝生検により上記の効果確認(効果なし)
6	慢性活動性肝炎	肝機能の改善	金大附属	1995/10/12	1995/12/21	インターフェロンβ<BM5327エロン6W連続 + 14W週3回>(H7.10.31~H8.3.18)(効果なし)
7	糖尿病	糖尿病の改善	金大附属	1997/12/22	1998/2/1	インスリン注射(当初R18,R16,R14,N14→最終R10,R2,R4,N2)→ヘイスン(錠剤)
8	右腎臓結石	結石の除去	金大附属	2000/8/25	2000/9/14	体外衝撃波結石破砕(血小板輸血)
9	糖尿病	糖尿病の改善	金大附属	2000/12/19	2001/1/27	ヘイスン錠、アマリール
10	肝硬変	肝性脳症の治療	金大附属	2002/11/6	2002/11/30	アミレハン点滴→アミレハンEN(粉末)
11	肝硬変	肝性脳症の治療	金大附属	2003/1/8	2003/1/24	アミレハン点滴→アミレハンEN(粉末)、アルブミン点滴
12	肝不全	生体肝移植	金大附属	2003/3/17	2003/6/5	生体肝移植(ドナー:妻) 合併症の改善:腎不全、肺水腫及び創縫合閉鎖手術
13	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2003/10/6	2003/10/8	肝生検(生体肝移植半年後の組織状況確認)
14	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2004/9/27	2004/9/29	肝生検(生体肝移植1年半後の組織状況確認)
15	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2005/9/15	2005/9/17	肝生検(生体肝移植2年半後の組織状況確認)
16	腰椎椎間板ヘルニア	左坐骨神経痛の改善	金大附属	2005/9/30	2005/10/28	椎間板一部摘出
17	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2006/9/12	2006/9/14	肝生検(生体肝移植3年半後の組織状況確認)
18	慢性活動性肝炎	肝機能の改善	金大附属	2007/1/17	2007/2/09	リハビリ併用ペグ・インターフェロン(週1回1年間の予定)
19	腎機能障害	蛋白尿、腎機能の改善	金大附属	2008/5/12	2008/5/21	腎臓萎縮等のため腎生検中止、食事療法及び安静養生
20	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2009/5/12	2009/5/15	肝生検(生体肝移植6年後の組織状況確認)
21	生体肝移植後状態	-----	金大附属	2011/3/15	2011/3/17	肝生検(生体肝移植8年後の組織状況確認)
22	悪性リンパ腫	抗がん剤治療	金大附属	2014/3/10	2014/8/15	R-CHOP療法6コース

6. 生体肝移植・臓器提供者（ドナー）決定までの流れ

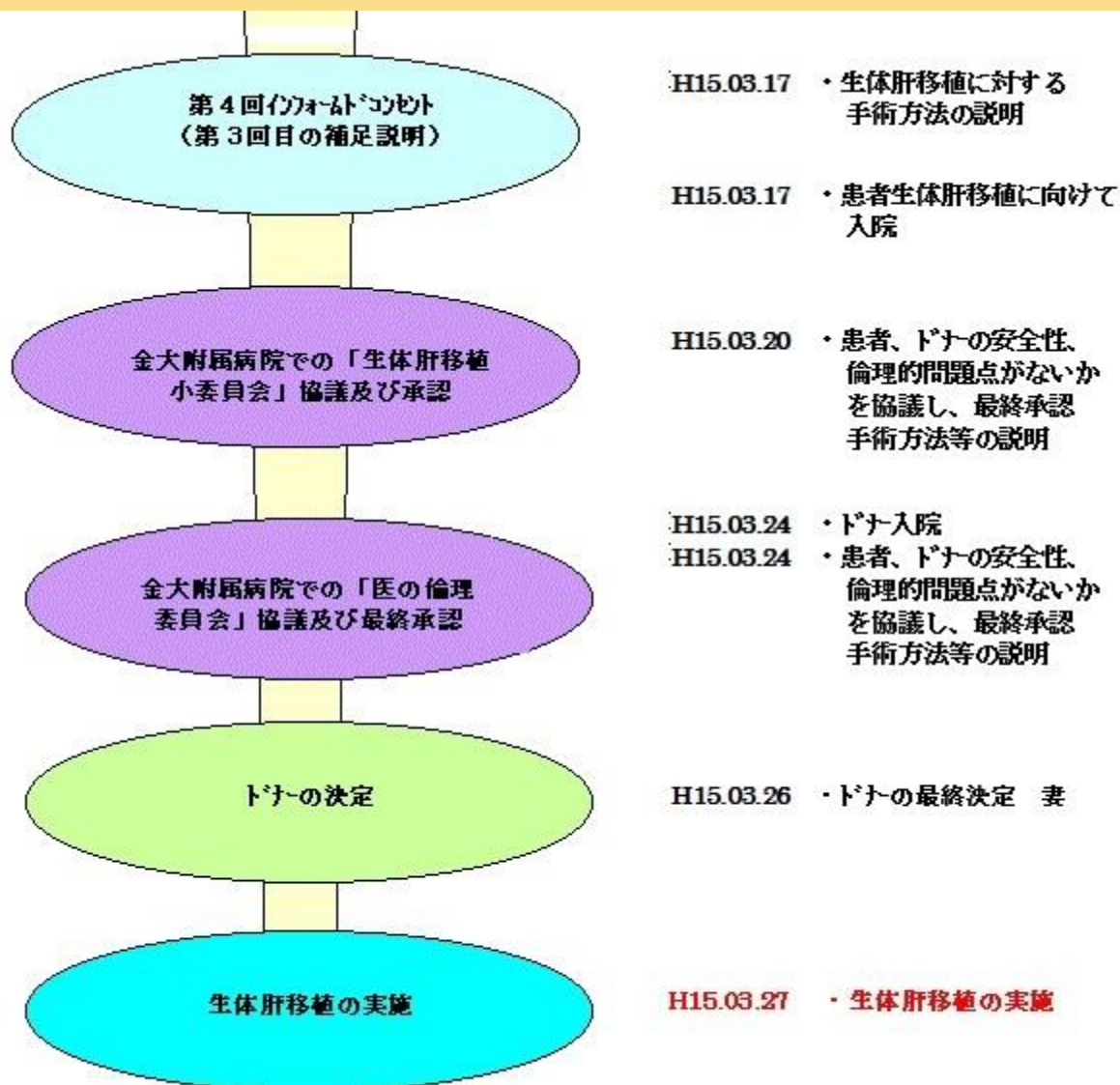
平成14年（2002年）肝硬変が悪化し、生体肝移植についてのインフォームドコンセントを受け





インフォームド・コンセント 説明と同意 (Informed consent)

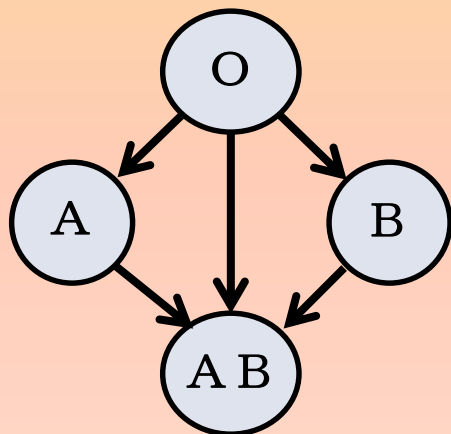
患者が医療担当者から適切かつ十分な説明を受け、その内容をよく理解したうえで、自分に必要と考えられる医療を選択すること。



この様に生体肝移植までは、大変慌ただしい日々でした。

7. 肝臓移植生体ドナーの条件

1. 成人であること。
2. 患者と血縁（2等親 最近では6等親まで拡大されている機関もある）
または夫婦であること。
3. 血液型が下の様な関係であること。



患者 (レシピエント)	臓器提供者 (ドナー)
O型	O型
A型	A型・O型
B型	B型・O型
AB型	AB型・A型・B型・O型

4. 肝臓のサイズが合っていること。
5. 自分の意志で肝臓を提供したいと思っていること。
6. 心身ともに健康であること。
7. 肺炎にかかっていないこと。

8. 手術経過と対応

レシピエントの手術経過と対応

時刻	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	
経過	患者 (レシピエント)入室 8:30		執刀 開腹 10:30		肝門 部処 理(肝 動脈、 門脈 処理) 12:20		下大 静脈 処理 14:00 肝静 脈系 処理 14:30 肝全 摘 14:45			肝静 脈吻 合 門 脈吻 合 17:20			肝動 脈吻 合 20:00			胆道 再建 23:00						手術 終了 4:30 術後 処理 終了 5:00	退室 5:00
対応 等	麻酔 導入				輸血 出血 への 対応		移植 肝搬 入経 路整 備 冷却 肝移 植	無肝 期へ の対 応	無肝 状態 把握	無肝 状態 把握	無肝 状態 把握	無肝 状態 把握	血 流 状態 観察		胆汁 分泌 状態 観察	洗浄 液・抗 生剤 準備	ドレー ン挿 入部 位確 認						ICUへ 移送

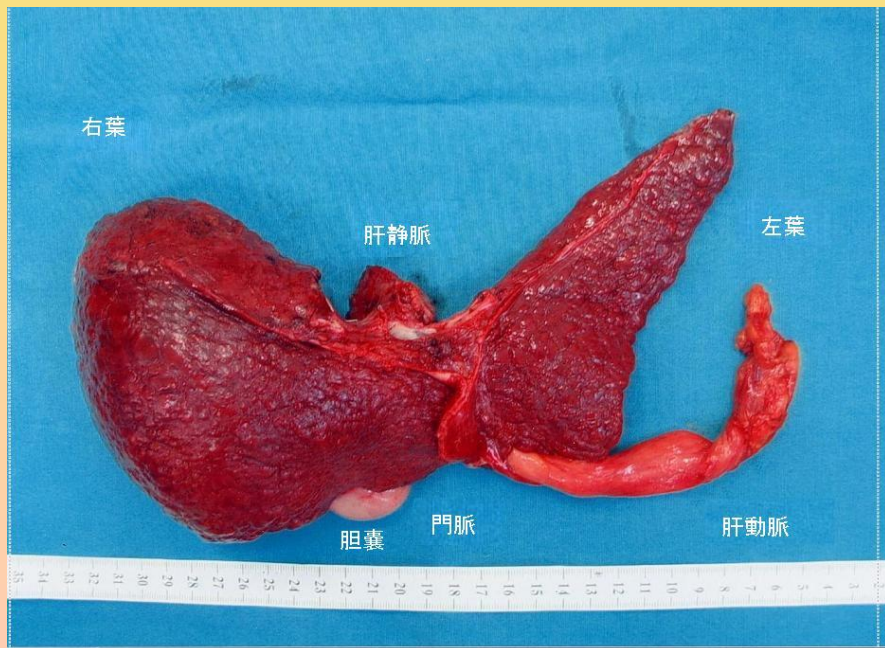
糸田敬弘の場合 手術室入室8:30 手術9:30～翌日5:00

ドナーの手術経過と対応

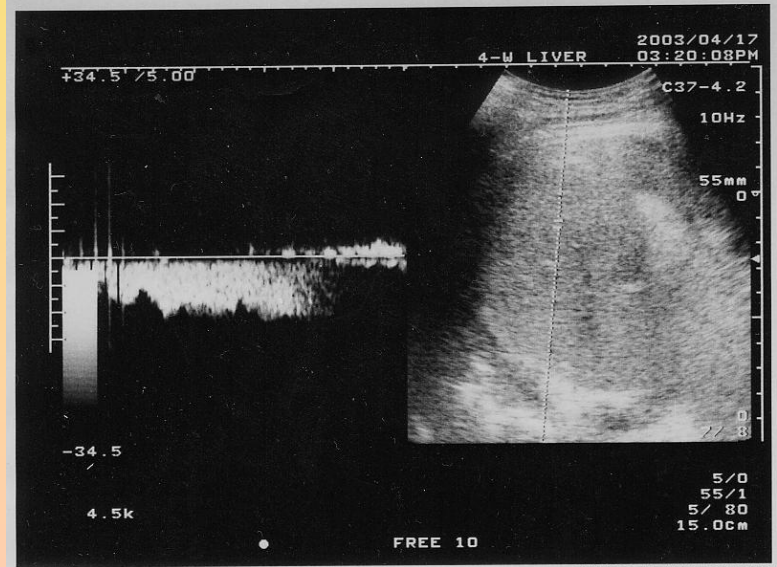
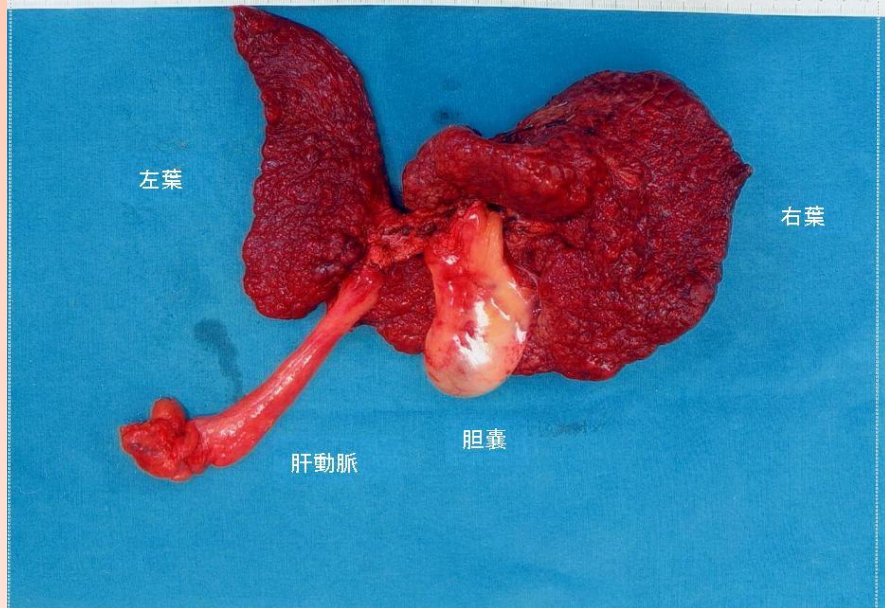
時刻	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	1	2	3	4	5	
経過	臓器 提供者(ド ナー)入室 8:30	気管 挿入	執刀 開腹 10:30	胆嚢 摘出	肝動 脈・門 脈・肝 静脈 テーピング	肝切 除 肝摘 出 摘出 肝 レシピエ ントへ				閉創 手術 終了 退出 17:30													
対応 等	麻酔 導入		開腹 後体 温変 動に 注意	体温 上昇 傾向	出血 状態 把握 ドレー ン確 認					ICUへ 移送													

妻の場合 手術室入室8:30 手術9:30～17:00

移植手術は癒着が激しく、約20時間程かかったようです。

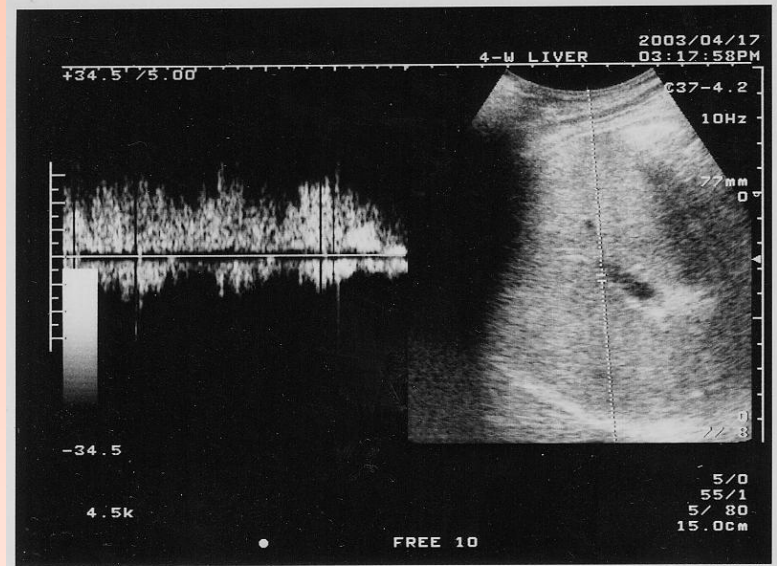


55年間働いてくれた私の肝臓です。有難う！



SUPER SONOPRINTER


術後の肝臓のCT画像です。



SUPER SONOPRINTER

10. 合併症との闘い


肝硬変が悪化し、平成15年3月(2003年)に生体肝移植手術を受けました。



移植手術を受けたら薔薇色の人生が待っていると思いましたが、しかし、大きな間違いでした。



移植は、治療の終わりではなく、新たな病気治療の始まりでした。



また、移植後は、合併症との闘いでした。

私の生体肝移植手術後の合併症は、入院中は、急性腎不全、肺水腫、創離開（縫合糸融けによる創縫合閉鎖術施行（再手術））、胆汁漏で、退院後は、免疫力低下による左母指MP関節炎、蜂窩織炎、帯状疱疹、牡蠣中毒等があります。

そして治療薬によるものと思われる胃潰瘍、高血圧、甲状腺機能低下、腎機能低下等があります。 **2014年の1月悪性リンパ腫発症。(免疫抑制剤長期使用による副作用)**

1 1. ホームページの開設

肝臓移植での経験をこれから肝臓移植を受けられる人達に何とかして伝えていきたいと思ったのと肝臓移植に関する色々な情報を発信して行ければと思います、移植から1年後の平成16年5月(2004年)にホームページを立ち上げました。

“生体肝移植「糸田」”で検索して頂ければ出てくると思います。┌:スペース
【生体肝移植手術を受けて(糸田)】

<http://itoda.server-shared.com/index.html>

移植までの経緯や移植の体験、費用、福祉サービス等を詳しく載せてあります。

福祉サービスについては、金沢市役所福祉サービス担当の方に身体障害者認定の申請や福祉サービスの説明をして頂き、その内容はホームページに載せてあります。

ホームページは、2021年の8月現在で13万件のアクセスを頂いております。それだけ、多くの方々が肝臓移植に関心があり悩んでいるのだと思います。

また、ホームページの印刷版「生体肝移植手術を受けて」(第3版)を作成し、金沢大学附属病院にも置かせて頂いております。

多くの方からホームページを見てメールで相談をされます。レシピエントの方は、治療的な事が多いですね。

但し、相談の多くはレシピエントではなく、ドナーの方からです。

医師、コーディネーターや看護師にも言えない、個人的な内容が多いですね。

親戚の方々から無理やり提供を勧められたりして困っているケース等がありますね。

いくら自発的な提供しか駄目と言われても該当者が自分しかいない場合は困りますね。

この様なメールを頂くと、世の中には、自分よりもっと苦しんでいる人が、大勢いるのだと知りました。

しかし、中には、私のホームページを見て勇気付けられ、移植を受け元気に過ごしていますとの嬉しいメールも沢山届いています。

1 2. 問い合わせのメールより

一つの例として、患者の恋人からのメールでした。

恋人の彼氏が、末期の肝硬変で、肝臓を提供したいが、恋人では、ドナーにはなれない。（第7章のドナーの条件に適合しない）

結婚しなければ提供できない状態であり、他に提供可能者がいなく、かつ、彼氏には、奥さんが出産後に亡くなられた時のお子さんがいました。

彼女は、結婚を希望しましたが、色々の事情があり結婚が出来ませんでした。

もし、移植が、可能であれば助かっていたかもしれませんが、結局、彼氏は、子供を妹夫婦に託し、亡くられました。

毎回、彼女の悲壮なメールを見るたび、生体肝移植って大変な事なんだなあと思いました。

生体肝移植は、健康なドナーの体や心を傷つけるだけでなく、ドナーに成れなかった人（ノンドナー）の心も傷つけるのですね。

改めて、もっと脳死肝移植が進めばこんなに苦しまなくても良いのになあと考えてしまいます。第15章生体部分移植と脳死肝移植の違いを参考に

しかし、脳死提供者のご家族には、大変な決断が必要となります。

他には、地元の医師に外国での移植を斡旋してもらいましたが、帰国後、数年してから体調が悪くなってきても“移植の事は良く分からない”と、地元の医師は十分な対応をしてくれないと嘆いておりました。

他の病院にも紹介して頂けない状態で、かつ、個人で他の病院に診察をお願いしても断られ、体調が悪くなり、ついに連絡が取れなくなってしまいました。

イスタンブール宣言により、このような海外で移植を受けるケースは少なくなっただと思います。

私の場合でも、移植した病院以外に診療に行った時、肝臓移植をしたと言っただけで診察してもらえない場合がありました。

1 3. 移植者友の会の発足

平成16年11月（2004年）に「金沢大学肝移植者友の会」（通称“きんかんの会”）を発足させました。

“きんかんの会”は、金沢大学附属病院にて肝臓移植手術・治療を受けられた方、他医療機関で肝臓移植手術をし、現在、金沢大学附属病院にて治療中の方、また将来、肝臓移植手術・治療が必要と認められる方並びにその臓器提供者や家族（以上正会員）及び医師、コーディネーター、看護師、他の病院で移植を受けられた方等の賛助会員で構成された会です。

現在の会員数は、正会員34名（レシピエント21名、ドナー11名、ファミリー2名）、賛助会員11名（医師5名、看護師・コーディネーター（6名））の合計45名です。

10年以上経過された方が、15名おられます。しかし、4名の方が、亡くなられております。

会では、先に手術を受けた人たちの経験等をとおして、情報の共有化により、移植患者及び臓器提供者としての不安を少しでも軽く出来ればと考えています。また、医師等の賛助会員の方々には、会をバックアップして頂いております。

移植患者が術後、元気に社会復帰している姿などの情報発信ができれば、一層の移植医療への理解も深まるものと期待しています。

会の総会時には、会報誌の発行や医師の方々に講演をして頂き、その内容をホームページにも掲載させて頂き情報の発信に努めております。

また、講演内容や糸田が個人的に収集した移植関連資料をDVDに纏め、病院に置かせて頂いております。

しかし、最近では新型コロナウイルスの感染防止のため、総会が開催出来ず、会の皆様とのお顔が見られないのは非常に残念です。

早く収束し活動を再開したいと思っております。

会員の中にも新型コロナウイルスに感染され大変な思いされたと聞いております。

ワクチン接種は必ず行ってください。

あなただけでなく、あなたを助けてくれた家族やまわりの人達を悲しませてはいけません。

14. 会員（レシピエント）の声より（抜粋）

Aさん

手術の前日、息子に“お母さんもう少し生きてい じめんね”というのと“わかっているよ”といってくれました。私はその言葉を胸に手術室に入りました。

健康な体にメスを入れて肝臓の一部を提供してくれた息子に一番の感謝ですが、私を支えてくれた家族、会社の同僚そして先生方また沢山の仲間に励まされ、私は今こうして生きています。

その人達に感謝の気持ちを込めて第二の人生のスタートをしています。

Bさん

生死をさまよったことで新しい人生が開けたようで、あのときの辛さが遠い昔のように感じられるようになってきました。しかしみなさんが少なからずともきっと不安はあったことでしょう。手術や入院生活についていろいろな相談ができ、メンタルな面でのケアもしていただけるようなコーディネーターがついていて下されば心強く手術を迎えられると思います。

Cさん

インターネットで知ったIさんのホームページを開き、診察内容、治療経過などが物凄く参考になりました。

それを思うと、最初にされた方の勇気や決断を想像すると感激します。

そして家族の方が私より一生懸命になってくれ、子供達が私にしてくれると言ってくれ、検査結果、未婚の娘から貰う事になりました。でも、娘はあっけらかんと“痛みや傷跡ぐらい、どう一って事ないよ！”って引き受けてくれました。でも、ドナーの娘は癒着の問題があって、現在も食事が思うように獲れず、月一度の通院をしています。・・・

この度、結婚しました！！ 感謝 感謝！！

すべての人にありがとう！！

この方は、癌が再発し亡くなりました。

Dさん

入退院を繰り返しながらの抗癌剤の投与で吐き気が毎回襲うようになり、癌の進行も収まらない。その頃、生体肝部分移植の話を知った。このまま命を全うしようか、ドナーのこと、経済的（ミラノ基準外の為の莫大な私費用）、合併症、将来のことなど、精神的に追い詰められていきました。

従兄が医者なので相談に行き、占いにも、寺の僧侶にと、誰かを頼るよう相談に廻りました。

ネットで京都大学の資料を見て、症例の多さにここにしようかとも思ったり。

メールで他の病院の先生に意見を伺ったりしたが、結局、最後は自分が判断することになるのだが・・・。

鬱の状態だったので、このときに誰か、悩みを聞いて欲しいと思った。最終回答日前日に親子4人、涙の家族会議のなか息子がドナーに手を挙げてくれて「まだ死んで貰っては困る」との言葉に、感激して最終決定をしました。

Eさん

余りにも体の状態が悪いので、手術が出来ないと倫理委員会で2回も流れ、3回目でやっと、家族の強い希望で手術をやりましようと言われたそうです。

私は、この頃はもう意識喪失状態で、重症患者となっていました。

だから手術前後の事は全く覚えていません。究極の判断で先生方の素晴らしい医療技術のおかげで私は生かされました。

成功率数%といわれた最悪の状態を奇跡的にも、みごと成功させて頂き、心から感謝致します。

同時に家族や娘の勇気ある強い愛に感謝しています。

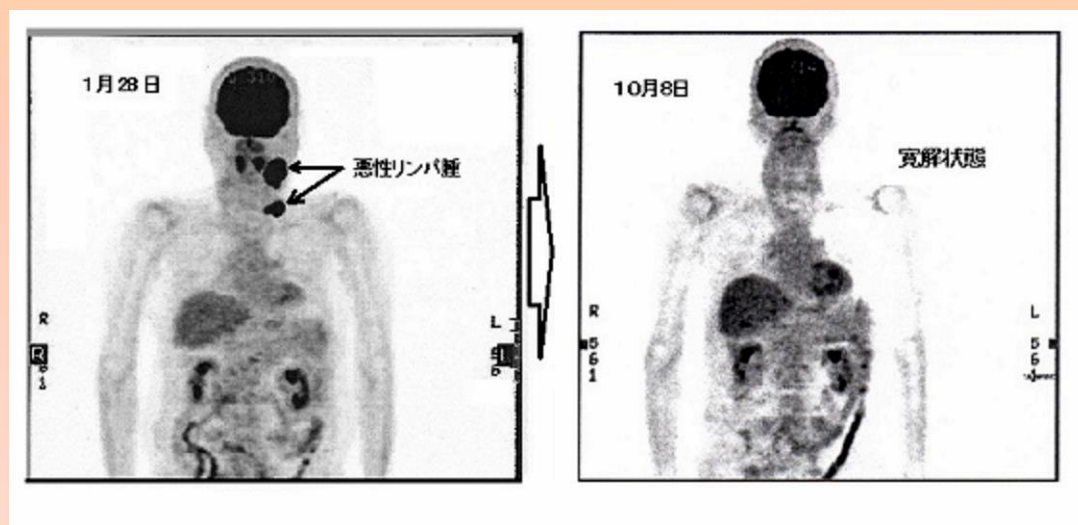
15. 悪性リンパ腫との闘い

第10章「合併症」で述べましたが、免疫抑制剤長期使用による副作用で2014年の1月に悪性リンパ腫を発症しました。血液の癌ですね。

悪性リンパ腫のタイプは、「非ホジキンリンパ腫」の「びまん性大細胞型Bリンパ腫」でした。移植から10年以上経ったのに・・・

治療法は、R-CHOP療法という抗がん剤治療で、何れも初めて聞く言葉ばかりで何のことやらさっぱりでした。

初めの話では入院後しばらく様子を見てから通院も可能と言われましたが、私の場合は移植手術をしているためか副作用が強く結局5ヵ月間の入院が必要でした。



入院中、頭の毛は全て抜け、血小板が殆どない状態で3回の血小板輸血が必要でした。

当然、無菌室の個室で過ごしました。辛い治療だったです。

抗がん剤治療が効き2022年の4月時点で再発は認めておりません。

16. 参考 生体部分移植と脳死肝移植の違い

生体部分肝移植と脳死肝移植の違い

生体部分肝移植	脳死肝移植
ドナーとレシピエントのタイミングを合わせて行う待機（準緊急）手術	ドナー発生との一報から開始される緊急手術
部分肝移植	（基本的に）全肝移植
ドナー手術とレシピエント手術を同一院内で行う	ドナー手術はドナー発生病院で行う

脳死肝移植ドナーの条件

脳死肝移植ドナーの条件

移植臓器 脳死ドナーの年齢

肝臓: 制限なし

腎臓: 70歳以下

小腸: 60歳以下

膵臓: 50歳以下

肺: 70歳以下

心臓: 50歳以下

臓器	虚血許容時間	搬送許容時間	主な搬送手段
心臓	4 時間	2~3 時間	防災ヘリ、救急車、パトカー先導、 緊急車両、チャーター航空機
肺	8 時間	6 時間	
肝臓	12 時間	8~10 時間	タクシー、定期航空便、
小腸	12 時間	8~10 時間	新幹線、列車
膵臓	24 時間	22 時間	
腎臓	24 時間	22 時間	

17.最後に

移植手術を体験し「命の大切さ」、「自分の命は、自分一人の物ではなく、多く人に支えられている」という事を痛感いたしました。

悲しかった事は、移植仲間が亡くなった事や残されたドナーやご家族の事です。

残念だと思った事は、プライバシーの関係や広報不足もあり、自分達の経験を移植を受けられる方々に十分に伝えられなかった事です。

最後に、東日本大震災の様に元気な人がある日突然亡くなるかと思えば、私の様に余命六カ月と告げられた命が、19年以上も生きながらえているのです。

生かされた命ですので、これまで学んだ事をホームページやDVDに載せ、一人でも多くの方々のお力になればと思います。

ホームページには、私のメールアドレスを公開しておりますので何かありましたら、メールして頂ければ幸いです。

改めて、今迄、私を助けて頂いた多くの方々に、感謝申し上げます。

ご清聴有難う御座いました。

